

## 令和元年度事業からの主な課題点

- ① 将来的な基幹型相談支援センターの設置を見据えた相談支援体制の見直し
- ② 相談員同士が連携し、相談し合える場づくり（委託相談と特定相談の役割の明確化）
- ③ 8050問題など、多様化・複雑化する困難ケースに対応する相談員の質の向上
- ④ 各事業所の支援の対応力をつけ、多職種連携による支援体制をつくる
- ⑤ 医療的ケア児を支援する体制づくり（医療的ケア児等コーディネーターを配置）
- ⑥ 障がい福祉分野で働く人材の確保
- ⑦ 災害時の支援体制の強化
- ⑧ 市民への障がい福祉サービスの啓発
- ⑨ 在宅障がい者の支援の強化

★令和元年度 小牧市障害者自立支援協議会事業実施状況一覧

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全体会		5/20					10/7				2/17	
調整会議	4/25					9/12				1/23		
相談支援事業所連絡会		第1回 5/15	差別解消法 研修会 6/24	第1回事例 検討会 7/12		第2回 包括学習会 9/12			第2回事例検討会 12/12 特別支援学校との 意見交換、情報交換 会 12/19		アセスメン ト研修会 2/20	
こども連絡会			第1回 6/10			療育支援 事業研修会 9/25	性の研修会 10/8	第2回 11/12			第3回 2/27	
日中活動系連絡会			第1回 6/4	第1回ガイ ドブック作 成作業部会 7/16		第2回 9/10	第2回ガイ ドブック作 成作業部会 10/24	第3回 事業所 見学会 11/5			第3回ガイ ドブック作 成作業部 会 2/18	第4回 3/10 中止
就労支援連絡会			第1回 6/5			第2回 9/11			第3回 12/11			第4回 3/18 中止
居宅介護サービス事業所との意見交換会												3/12 中止
小牧市福祉サービス事業所一覧作成									▶ 完成			
福祉映画を鑑賞する会					8/11							
小牧福祉就職フェア		第1回実行 委員会 5/28		第2回 7/3 第3回 7/17	第4回 8/20	第5回 9/17	第6回 10/15	第7回 11/19	実施日 12/7	第8回 1/9		

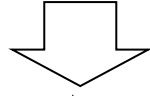
相談支援事業所連絡会事業実施報告書

令和元年度

小牧市障がい者計画	目的・ねらい	実施内容	実績、参加人数	参考：第3次障がい者計画	参考：第5期障がい福祉計画、第1期障がい児計画
学校との連携	進路指導担当と情報共有、事業所のPR	(12/19) 小牧・春日台・一宮東特別支援学校進路指導主事と市内相談支援専門員との情報交換、事例検討会	参加者：19名 内容：①特別支援学校市内在校生報告 ②事例検討（小牧・春日台・一宮東特別支援学校3グループ） ③特別支援学校と相談支援専門員が連携できたケース紹介（サンビレッジ障害者支援センター篠塚ユカリ氏）	P42	P40(1) ⑤、P41(4)
精神障がい者の地域移行	精神障がいのある人の地域への移行を促進	(11/14) 春日井保健所事業及び進捗状況の説明会の実施	参加者：15名（委託相談支援事業所職員、行政） 内容：①地域移行コア機能チームについて ②精神保健福祉実務者連絡会について 説明者：春日井保健所 角田 玉青氏	P44	P43(1)
相談員の質の向上	障害者相談支援専門員の質の向上と人材育成	(6/24) 研修会の開催 障害者差別解消法について	対象者：障害福祉サービス事業者 参加者：60名 講師：手嶋雅史会長	P29、P32(3)、P52(2)	P41(3) P52(5) P55(3) P64(1)
		(9/12) 研修会の開催 地域包括支援センターの役割	参加者：19名 講師：小牧地域包括支援センターふれあい係長 四宮貴美子氏 内容：①地域包括支援センターの役割 ②質疑応答		
		(R2.2/20) 研修会の開催 アセスメント研修	参加者：17名 講師：社会福祉法人 檉の木福祉会 障害者支援施設 かしの木の里 施設長 野崎貴詞氏 内容：初任者研修の振り返り アセスメントの技法		
	①困難事例のケース検討を行い、多くの相談員のアイデアで打開策を探る ②相談員一人ひとりの提案力、課題解決力の向上を目指す ③相談員以外の専門職にも参加を呼びかけ、一緒に検討していく	(7/12) 多職種事例検討会の実施	参加者：36名（内相談支援専門員20名） 事例提供者：メロディー相談支援事業所 三村龍馬氏 内容：高等部卒業後の進路について	P53(4)	P41(3) P52(5) P55(3) P64(1)
		(12/12) 野中式を用いての事例検討会	参加者：19名 事例提供者：地域活動支援センター 本庄プラザ 日高尚子氏 内容：高齢障がい者の支援		
	①他の関係機関との情報交換を行い、連携を図る ②相談支援事業所連絡会と各連絡会が検討すべき課題を共有し、一緒に課題解決に向けて取り組む	各連絡会へのオブザーバー参加	各連絡会の状況や課題を把握、連携 相談支援事業所連絡会へ報告	P41(2)、P42(6)、P53(4)	P40(1) ⑤、(3)、(4)、P55(3)
	相談支援専門員が課題を共有し、連携して課題解決に取り組む	(5/15)、(9/12)、(12/12) ・相談支援専門員同士の情報共有、意見交換	(5/15) 参加者：20名 計画相談実態アンケート集計結果の報告 ①特定相談支援事業所が委託相談支援事業所に求めている事などを把握、集約。 ②子どもの相談が増えてきている中で、子どものセルフプランが増えてきている。	P52、P53(1)～(4)	P41(3)、P52(5)、P55(3)、P64(1)
	小牧市の相談支援体制の課題を把握、情報共有し、相談支援充実に向けて検討していく		(9/12) ①地域包括支援センター勉強会の実施 ②各相談支援事業所での困りごと、困難ケースの共有 (12/12) ①Kotoha 総合相談支援センター 相談支援専門員1名増の報告。(市内相談支援専門員22名) ②来期連絡会代表の選出	P52、P53(1)～(4)	P52(5)、P64(1)

## ☆相談支援事業所連絡会課題点

- ①地域の小中学校や保育園、子育て支援課、保健センター、民生児童委員、地域包括支援センター等からの相談件数は増えてきているが、相談支援専門員が不足しており、セルフプランが増えてきている。(特に子どものケースが多い。)
  - ・計画相談支援事業所が増えない。計画相談では事業所の経営が成り立たない。※市内相談支援専門員数：委託相談 14 名、計画相談 8 名 (R2. 2/1 現在)
- ②多問題家族を抱えている中での多職種（医療や介護、行政等）との連携が必要になってきている。
- ③委託相談支援事業所の計画相談支援事業所へのサポート体制が確立されていない。
- ④一人ひとりの相談支援専門員のケアマネジメント力（アセスメントの取り方、調整・連携の力）の向上が必要。
- ⑤地域移行、地域定着支援事業の制度活用しきれていない。⇨ 事業の充実、理解を深める。



- ・基幹相談支援センターの役割や機能の検討の必要性 ⇨ 将来的な基幹型相談支援センターの設置を見据えた相談支援体制の見直し
- ・相談員同士が相談できる場づくり ⇨ 相談支援事業所連絡会の意見交換、委託相談支援事業所の特定相談支援事業所の支援のあり方検討
- ・障がい者やその家族の高齢化、多問題の多発化 ⇨ 事例検討会などによる地域包括支援センターや多職種との連携強化

こども連絡会事業実施報告

令和元年度

小牧市障がい者計画	目的・ねらい	事業内容	実績、参加人数	参考：第3次障がい者計画	参考：第5期障がい福祉計画、第1期障がい児計画
ネットワークの構築	① ライフステージにおける切れ目ない支援 ② 関係機関の情報共有、課題整理、連携	(6/10) ○乳幼児、小学生、中学生分野に分かれて情報交換、意見交換 ①支援級、ことばの教室、通級について ②保護者同士の交流の場 ③障がいが軽度の方の支援 ④中高生に対する支援	参加者：49名 【意見交換内容】 ◇乳幼児分野 ①支援者同士の連携 ②保護者同士の連携 ◇小学生分野 ①言葉の支援 ②学習支援 ◇中高生分野 ①中高生に対する支援	P40(1)	P40(1)⑤
障がい児支援早期療育の充実	① ライフステージにおける切れ目ない支援 ② 相談支援事業所への情報提供と障害児通所事業所相互の質の向上を目指す	(9/25) ○療育支援事業と合同企画 ・研修会～支援の必要なお子さんの対応について～ ・放課後児童クラブでの困りごとについて意見交流会	参加者：31名 (内：放課後児童クラブ職員8名) 講師：花井玲奈氏（愛知県医療療育総合センター地域支援課） 会場：小牧市公民館	P41(2)	P40(1)⑤、P41(4)、P64(1)
子ども・子育て支援における障がい児の受け入れ推進	保育園・幼稚園・こども園・児童クラブ・放課後子ども教室等における障がいのある子どもへの理解と適切な受け入れ促進	(11/27) ○あさひ学園職員に「児童発達支援・放課後等デイサービス学習会」の実施	参加者：20名 会場：あさひ学園	P41(4)	P55(1)、P65(1)、(2)
		(10/8) ○支援が必要な子どもの性教育に関する研修会	参加者：88名 講師：伊藤修毅氏		
学校との連携	乳幼児期から学校また卒業後の就労、生活の場を知り合い、繋がり、連携する	(1/28) ○就労系福祉サービス事業所見学会実施	参加者：12名 さいおワークス坂下、キッチン高森、さいおワークス、ななぎりワークスを見学	P42(6)	P40(1)⑤、P41(4)
防災への取り組み	災害時に事業所同士が助け合い、障がい児、家族、地域住民を支援する為の情報共有	(11/12) ○第2回こども連絡会 ・小牧市の医療的ケアについて意見交換 ・困難ケースや日々の困りごとについて意見交換	参加者：38名（全体） ・児童デイサービス事業所と医療的ケアに関する機関のグループに分かれて討議 ・小牧市の医療的ケアの現状、医療的ケア児の状況について	P50(3)	
医療的ケア児等の支援	医療的ケア児が在宅生活を支える体制を作っていく			P44(3)	P40(1)⑤、P45(5)③
サービスの質の向上	サービス事業者等の質の向上	(7/12) 多職種事例検討会の実施	参加者：36名 【内こども事業所10名】	P41(3)	40(1)④、P41(3)

☆こども連絡会課題点

①医療的ケア児への対応。小牧市内には医療的ケアに対応できる事業所がない。⇒	令和2年度から医療的コーディネーターを配置し、定期的に勉強会を実施する。 在宅医や訪問看護等、社会資源の状況を集約する。 医療的ケア児の所在、状況を把握をする。
②こども連絡会が乳幼児期、学童期、思春期の0歳から18歳までとライフステージの幅が広く、また、児童デイサービスや子どもに関わる支援機関、保護者の会と参加者も幅広い。ひとつひとつの課題の共有が難しい。⇒	「成長記録ノート」の更なる活用連絡会内で年代別、課題別に検討を実施。 事業所同士の意見交換会を実施。
③障がいの疑いのある子が放課後児童クラブに通うことがあり、対応に苦慮されるケースがある。⇒	放課後児童クラブと福祉サービスとの連携や相互の理解促進を進める。
④外国籍の方が多く言葉の問題があり、アセスメントや契約の際に困ることがある。⇒	通訳の充実。翻訳機の活用と検証を行なっていく。
⑤乳児時に障がい診断があると保育園の受け入れができず、働く親が困るケースがある。⇒	令和元年、保育園の看護師の配置に着手。

小牧市障がい者計画	目的・ねらい	実施内容	実績、参加人数	参考：第3次障がい者計画	参考：第5期障がい福祉計画、第1期障がい児計画
防災への取り組み	①災害時に事業所同士が助け合い、障がい者、ご家族、地域住民を支援する為の情報共有ができるようになる ②災害時に障がい者や地域の方が迅速に避難できる場をつくる	(9/10) 小牧市の避難所の現状、様子を知る勉強会の実施	参加者 22 名 内容：①災害発生時の対応について講義（小牧市役所危機管理課） ②質疑応答	P 5 0 ( 3 )	
サービスの質の向上	事業所相互の見学	(11/5) いわさき授産所の事業所見学	参加者 19 名 内容：①事業所見学 ②事業所見学後、連絡会を開催（近況報告・第2回自立支援協議会本会報告ガイドブックについての説明・就職フェア進捗状況・次年度代表選出・災害時要援護者台帳への登録・災害備蓄品の確認）	P 4 1 ( 3 )	P 4 0 ( 2 ) ②
	①サービス事業者の知識の習得や、サービスの質の向上 ②サービス管理責任者、生活支援員の育成 ③サービス事業所と相談支援専門員との連携 ④サービスを利用していない障がい者の地域での居場所づくりを検討する	(6/4) ・個別支援計画書、アセスメント内容勉強会	参加者 17 名 計画書、アセスメント提出者：生活介護ぽぼらす ・他事業所の計画書作成やアセスメントの仕方を学んだ。	P 4 1 ( 3 )	P 4 0 ( 2 ) ②
社会参加のしやすさの向上	障がいのある人のためのサービスを分かりやすく説明した事業所ガイドブックを作成し、事業所のPRをする	日中活動系事業所ガイドブックの発行	・作業部会で作成 ・令和2年3月に100部発行。 ・市、社協のホームページ掲載	P 3 5 ( 2 ) P 4 8 ( 6 )	P 4 8 ( 2 ) P 5 7 ( 9 )

☆日中活動系連絡会課題点

<p>① 日中活動の充実とともに生活の質の確保が課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日中活動系サービスの内容の向上</li> <li>・相談支援専門員との連携強化</li> <li>・事業所に属さない方の地域での居場所が少ない。</li> </ul>	<p>} ⇒</p>	<p>個別支援計画書、アセスメント勉強会の継続、多職種事例検討会の実施</p>
<p>②ヘルパーの人材不足</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者全体の生活の質の向上ができない</li> <li>・本人や本人を取り巻く家族支援が不十分</li> </ul>	<p>} ⇒</p>	<p>就職フェアの継続開催</p>
<p>③災害が起きた時の体制の強化が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日中活動系サービス事業所ごとに備蓄品台帳の更新、作成 ⇒ 他の連絡会でも災害時備蓄品台帳を作成</li> <li>・利用時以外での災害時に備えて利用者の自宅訪問、地域とのつながりの確認が必要 ⇒ 災害時要援護者台帳への登録を啓発</li> <li>・事業所同士のネットワークづくりが必要</li> </ul>		
<p>④生活介護や地域活動支援センター等の日中活動事業所の活動内容が市民に知られていない。⇒</p>		<p>日中活動系ガイドブックの活用</p>

# 就労支援連絡会事業実施報告書

令和元年度

小牧市障がい者計画	目的・ねらい	実施内容	実績、参加人数	参考：第3次障がい者計画	参考：第5期障がい福祉計画、第1期障がい児計画
事業所の理解促進 障がい者雇用の推進	障がいのある人の雇用促進に関する広報・啓発活動に取り組み、一般企業等の理解・協力を推進	(9月) 障害者雇用支援月間ポスターを就労継続支援事業所を通じて一般企業に配布。また、日中活動系、こども連絡会事業所にポスター配布。	・就労支援や日中活動系、こども連絡会事業所にポスター100枚配布。就労支援事業所は、1事業所4枚ずつ配布。就労継続支援事業所から一般企業に配布。	P38(1)	P55(1)
ネットワークの構築	①ライフステージの切れ目のない支援 ②こどもに関わる機関、事業所と顔の見える関係づくり	(7/12) 多職種事例検討会	・参加者：36名（内就労連絡会5名） 事例：高等部卒業後の進路	P22、23(2)、(4)、(5)	P39～P41(1)～(4)
就労施設への支援	一般企業や、働きたいと思っている障がいのある人への情報発信。企業向けPR（小牧商工会議所を通じて）	障がい者が働く事業所ガイドブックの更新・発行	・令和2年3月にデータ更新、100部を発行 ・市、社協のホームページ掲載	P38(2)	P43、P44(4)①～④
障がい者雇用の推進	①就労移行支援、就労継続支援A型・B型から一般就労の機会の拡大や職場定着 ②一般企業からの障がい者雇用促進	① 市内就労継続支援事業所に一般企業に就職した方のアンケート実施（更新）  (R2.1/24) ②障害者雇用推進セミナー開催の協力	①令和元年12月にアンケート集計報告 来年度は県のアンケート集計に合わせて実施する。  ②令和元年度尾張北部圏域障害者雇用セミナー 就労支援、日中活動系、相談支援、こども各連絡会事業所に情報提供	P38(3)	P43、P44(4)①～④

## ☆就労支援連絡会の課題

<p>①収入が少ない為、生活的に自立が難しい。 ・就労継続支援A型事業所は雇用契約であるが、短時間での労働。 ・就労継続支援B型事業所・生活介護の内職は非雇用での工賃。</p>	}	事業所の支援の質の向上	平成30年度工賃（全国：月平均） A型 76,887円 B型 16,118円
<p>②利用者の就労以外（生活の困り事）に対して事業所によって対応が違う。 生活にどこまで就労支援事業所が踏込めばよいか。清潔、食事、金銭管理、家族関係等の問題 ⇒ 相談支援事業所との連携強化し、協力して生活支援を行う。</p>			
<p>③就労支援事業所での利用が続かずいくつもの事業所を短期で回る人がいる ⇒ 生活介護でのフォローアップ、生活介護の利用対象でもない狭間の人への行き場づくり。</p>			
<p>④就労継続支援A、B型利用者が減ってきている。 ・新卒者が入らない。 ・市外のグループホームに入居し、市外の就労事業所に通う人が増えてきている。</p>	}	魅力的な事業所づくり 市内のグループホームの充実	

全体の事業実施報告書

令和元年度

小牧市障がい者計画	目的・ねらい	事業内容	実績、参加人数	参考：第3次障がい者計画	参考：第5期障がい福祉計画、第1期障がい児計画
相談先の周知	広く市民に障害福祉サービス事業所を周知する	(12/20) ①障がい福祉サービス事業所一覧完成 (9/10) ②出前講座 東新町サロン	①2,000部発行。市役所と社協ホームページにアップ ②参加者：10名 【講義内容】 ・障がいの理解 ・障害福祉サービスについて	P53(3)	P39(1) ②、P55(1)、P67・3
福祉人材の確保	①福祉人材不足解消 ②障がい等福祉の魅力PR	(12/7) 小牧福祉就職フェアの開催	来場者：95名(就労につながった方10名) ・参加法人(事業所)：28法人 ・事業所ごとにブースを設置し、説明を行う ・就労継続支援事業所による物品販売	P35(5)	P39、P40(1)②、③ (2)①～③
		こころのサポートボランティア養成講座への実施 (全7回コース)	参加者：8名 令和2年1月29日(水) 講師：ともこころのクリニック 院長 高木 友徳先生 内容：精神疾患・障がいの基礎知識 令和2年2月8日(土) ・障がい者福祉の取り組みと機能について ・ボランティア活動について ・グループワーク 「当事者への対応のポイント」 ・実習に向けたオリエンテーション アドバイザー：本庄プラザ：丹羽氏、エーデルワイス、小牧市社会福祉協議会：羽飼 令和2年2月14日(金)、15日(土) ・ボランティア体験実習 ・とまり木、ひまわり会、本庄プラザ  ⇒(2/28、29、3/5は延期) ・グループワーク ・講座のまとめ、アンケート ・閉会式		
障がいに関する理解の促進	地域住民の障がいに関する理解促進	(8/11) 市民を対象とした ①映画鑑賞会の実施 映画：「ぼくはうみがみたくなりました」 ②感想文コンテスト	①参加者69名(内：小、中学生9名) ・市内小中学校にチラシを配布。 ②応募者1名：(優秀賞) 優秀賞 ・福祉展(10/19、20)ここぱりコーナーで紹介 ・小牧福祉就職フェア(12/7)で紹介 ・社協だより12月号で紹介	P32(2)	P55(1)
相談支援体制の充実	①65歳になった障がい者についての相互連携 ②8050や7040世帯への相互連携	(6/2) 小牧市身体障害者福祉協会での出前講座に参加 (9/12) 小牧地域包括支援センターふれあいより業務内容の勉強会実施	参加者：8名 ①障がい者福祉について ②65歳になった実際の事例を通して考える  参加者：18名 講師：小牧地域包括支援センターふれあい 四宮貴美子氏 内容：地域包括支援センターの業務説明	P30	P67-4
学校との連携	①市内の卒業生の進路確保、事業所と受け入れができるか検討する機会をつくる ②進路指導担当と情報共有、事業所のPR	特別支援学校へ出前講座 ①(7/25) 春日台特別支援学校 ②(8/28) 小牧特別支援学校	特別支援学校へ出前講座 ①春日台特別支援学校・参加教員：約100名 ②小牧特別支援学校・参加教員：約100名 ・特別支援学校教員向けに小牧市の相談支援事業所の仕組みについて講義	P42	P40(1)⑤、 P41(4)
障害福祉サービス(訪問・日中活動系)等の充実	地域での自立した暮らしを支える居宅介護、重度訪問介護、訪問看護、訪問リハビリなどの訪問系サービスと情報共有、情報交換、課題の共有	居宅介護サービス事業所と相談支援専門員との意見交換会	令和2年3月実施予定⇒来年度に延期	P35(2)	P40(2)①、P48(1)



## ☆全体事業の課題点

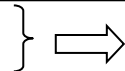
①障害相談支援事業所があることを十分市民に周知されていない。

②市民に対して、障がいの理解をしてもらう機会が少ない。

③障がい福祉分野で働く人材が不足している。特にヘルパーの人材不足、高齢化。

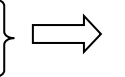
④障がい福祉分野で働く魅力を伝える機会が少ない。

⑤在宅系サービス事業所の連絡会がなく、意見交換会も中止になったので状況の集約ができていない。



市民向けに啓発する機会を検討する。

民生児童委員に障がい者の生活の困りごとを知ってもらう。



就職フェアの継続実施



在宅利用者やサービス事業者の意見を反映する場を設ける。

